

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372102216		
法人名	株式会社 ナンプ		
事業所名	グループホーム リズム1		
所在地	岡崎市若松町字西之切50		
自己評価作成日	令和3年9月12日	評価結果市町村受理日	令和4年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigovosyoCd=2372102216-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いたわりあい、たすけあい、おだやかにともにくらす」が事業所理念です。職員がこの理念をもとに入居者様に接しています。今、出来ていることは継続し、出来そうなことを提案できるように職員間でアセスメントをし、実行、モニタリングをしています。
広い中庭にはベンチがあり自由に外に出て季節を感じられたり、散歩をされます。リズム通信を毎月作成し、ご家族様に入居者様の様子を写真入りで伝えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

永年にわたり大切にしてきた理念の下、利用者のできる事は利用者に任せるといった、利用者が自立して暮らしていける支援に努めている。季節感を大切にしたレクリエーションに力を入れており、利用者がホームでの生活を穏やかに楽しんでいけるように工夫している。
職員同士の良好な関係があり、情報共有も十分に行われている。「リズム便り」を発行することで、家族にもホームの取組みや利用者様の様子を詳しく伝えており、利用者様と家族との関係を途絶えさせないための取組みがある。
ホームの充実した設備を活かして利用者の自立を促し、楽しんで生活できるように支援しており、居心地の良い空間を演出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が目につく所に張り出して意識付けをしています。新入社員には初日に伝えました。	新入職員には、研修の中で理念を説明している。ホーム内に理念を掲示して全職員がいつでも確認できるようになっており、実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	4月に町内の総代さんが変わった際にはご挨拶に伺いました。小学校との交流や運動会への招待や敬老会等の行事はコロナ過のため縮小されているため交流は少なくなっています。	町内会に入会しており、回覧板が回ってくるなど、地域との交流に努めている。近隣の中学校から職場体験を受け入れた事例もあり、今後地域との交流を深めるための計画もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護に関する相談事に対応させて頂いています。初任者研修のための実習の受け入れをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過のため書面にて報告させていただいています。それに対してのご意見はいただいていません。	運営推進会議に、毎回利用者家族や民生委員、地域包括支援センターの職員等が参加している。コロナ禍の現在は書面にて開催しており、議事録を送付して情報共有に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退所報告や介護保険についての相談を行っています。	行政とは、ホームで事故が起こった際などに状況や経過等を電話で報告し、情報共有を図っている。行政と協力し、認知症の講習を行うといった取組みも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除委員会を設置し、2か月に1度、会議を行い(現在は書面にて)、現状の把握や確認、改善を行っています。	委員会が研修を用意し、職員の身体拘束に対する意識を高めている。各部署の課題を持ち寄って検討し、身体拘束に繋がりそうな場面でどのように対応するか話し合っている。スピーチロックに関しても、前向きに考えることをホーム内で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束排除委員会と併せて現状の把握や確認、改善を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修のパンフレットを張り出して参加を募っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時には、ご本人様及びご家族様へ納得していただけるまで説明し、その上で同意を得られるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議や面会時など、様子をお伝えしたりご要望をお聞きし、職員と共有していません。外部へ表せる機会を設けてはいません。	隔月で発行される「リズム便り」や面会時・電話などで利用者の様子やホームの取組みを伝えた際に、家族等からの意見や要望を聞き、検討した上で運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にコミュニケーションを増やし困っていることや、提案事項を聞いて改善できることは実施しています。	コーチング研修を受けた管理者が面談を行い、職員から話を聞いている。毎月職員会議を開き、自由に意見が言えるように工夫しながら、幅広く意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数、職責、人事評価結果に応じた給与設定、資格取得に対する報酬制度等があります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員指導員を設けマンツーマンで指導しています。社外研修に関してはパンフレットを張り出し参加を募っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過でグループホーム小部会は休止が多くなっています。そのため交流は少ないです。社内には計4つのグループホームがあり待機者の情報共有や運営上の問題点等を顔を合わせた時に意見交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に面談を行い、ご本人の困っていることや、要望を伺う機会を作り計画を作成しております。安心して生活していただけるように職員から積極的に話かけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会議にはご家族様のご要望を伺っています。面会時にはご本人様の様子を伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じてご家族様に適したサービスが提供できるように相談しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事、やりたい事を通して他者との関わりを持っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様にいつもと違う点が見られた場合は、ご家族に相談したり、ご家族様の意向をお聞きしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の散髪は馴染みの所へ今までのように通っていただいたり、受診の際は通われていた病院へご家族様にお連れいただいています。	初期アセスメントを行い、馴染みの関係を把握している。さらに、普段の会話からも趣味等を聞きだしている。馴染みの店で散髪したり、趣味の編み物をホームでも続けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	掃除や食事の配膳、レクリエーションを通して一緒に生活していると実感していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了の理由にもよりますが、他施設へ転居される場合はそれまでのご様子や介助方法などの情報提供に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話からご本人様の思いをくみ取っています。	日ごろの会話で利用者の意向を聞きとり、介護記録に記している。チーム全体でアセスメントの重要性が共有されており、利用者とのコミュニケーションもとられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの物を入居時お持ちいただいています。これまで利用されていたサービスに関しましては情報収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、介護記録、申し送り等で一人一人の把握に努めています。心身状態によっては、静養する時間を作り安楽して生活できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人一人に担当職員をつけケアチェックやモニタリングを実施しています。短期目標が切れる時に意見をだし、介護計画に反映しています。同時にご家族様の要望をお聞きしています。	利用者の現状に合わせた介護計画を作るために、職員同士が情報共有を行っている。利用者毎に担当職員がおり、モニタリングを6ヶ月毎に行って介護計画を見直している。	介護計画については、個別性や意向の反映が望まれており、今後も継続した取組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録以外にも日報へ特変事項を記入し、職員間で情報共有を行っています。担当職員とケアマネが主となり介護計画に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身状態の変化を常にご家族様に連絡し、サービス内容の変更についてお話しています。緊急性が高い場合は職員間で協議し対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過になってからは地域とのつながりは少なくなっていますが、回覧板を総代さんが回して下さるので地域の色々な情報を入居者に伝えています。参加出来そうな事は検討しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際、かかりつけ医を当社の協力医療機関に指定していただく規則はありません。月1回の往診と必要に応じて受診をしております。	月に1回、訪問診療の機会が用意されている。24時間対応で医療機関との協力体制が整っており、日常的な健康管理は看護師、薬の管理は薬局が行うといった役割分担で連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による朝夕の巡視時、特変事項を報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、病院の看護師や相談員さんと情報交換を行い、病状の把握と退院後の受け入れ体制を整えるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を設けてご家族様から同意を頂いております。その中でご本人様、ご家族様の意向を確認させて頂き、話し合いをするようにしております。	入居時に利用者と家族に終末期の対応について話し合い、ホームの指針を説明している。終末期は医師と家族とが相談し、可能な限りホームでの生活が続けられるようにしている。緊急時には対応マニュアルが用意されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはフローチャートを参照し、関係者への連絡体制を作り、急変時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施しています。地域の方との関係作りに関しては今後の課題となります。	消防署の立会いはないが、年間2回の訓練を行っている。災害時の備蓄は保管場所を分散しており、停電に備えた備品を用意している。災害時の職員の確保には、携帯メールを活用することとしている。	緊急時に適切な対処が行えるよう、職員は救急救命の講習を受けていることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係を築きつつ、相手の方に不愉快な思いをさせないような言葉遣いを行えるよう努めています。プライバシーに関しては部内で適切な介助、声掛けができていますか確認しています。	法人全体でのプライバシーに関する研修がある。利用者の尊厳への配慮として、利用者や家族のような関係を築きながらも、言葉遣いが砕けすぎないようにする等の関りを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを押し付けるようなことはせず、個々の能力や心身状態を把握した上で、自己決定が行えるように声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご本人様のペースを大事にしてそれに合わせて自由に過ごして頂いています。しかしながら職員のペースに合わせて頂く場合もまだまだ見受けられます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にはご自分の着たい服を選んで頂いています。洗顔後、髪をといて寝癖を直したり身だしなみを整えて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には盛り付け、机吹き、配膳、下膳、食器洗いをしていただいています。	日頃の会話から好みの把握に努め、敬老の日には利用者も参加しておはぎを作って食べた。食事の際には、お盆拭きや洗い物に参加してもらうといった役割を持ってもらい、楽しめる環境を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新鮮な野菜や旬の食材を出来るだけ多く食べて頂けるようメニューを考えています。食事形態は個々に対応しています。必要に応じて食事の介助を行っています。食事量、水分摂取量は毎回、記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の口腔ケアが必要な方には磨き残しが無いよう援助しています。希望者には訪問歯科診療を使って頂き、ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをトイレでの排泄を基本としています。車椅子の方でも職員2名介助にてトイレでの自己排泄に取り組んでいます。	可能な限り自力での排泄を促すように心がけている。車椅子利用者には、2人体制で排泄介助を行っている。パッド交換時には、タオルをかけるといった羞恥心への配慮がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌を多く取り入れた飲み物を提供しています。歩行距離を増やし腸の運動を促進しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴機会を設けています。ご本人様の体調に留意しながら無理強いしない声かけをしています。時間帯を変えたり職員を変えたりと対応しています。菖蒲湯やゆず湯等、工夫しています。	週に2~3回、入浴の機会がある。日頃から入浴剤を使ったり、菖蒲湯や柚子湯を提供するといった入浴を楽しめる工夫がある。入浴拒否がある場合は、時間や日にちを変えて入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくりと眠ることができるように日中の活動時間を出来るだけ増やすように努めています。居室の温度調整をこまめに行い、布団干しも行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に処方内容を職員がすぐに確認できるように個人ファイルに保管しています。内容に関して不明な点があれば、薬剤師へ確認を取るようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的にイベント食を企画し、入居者様に食べたいものを伺い希望に添えるようにしています。天気の良い日には中庭へ出て散歩や日向ぼっこで気分転換をして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ出る際は職員が付き添います。近所で新しいお店ができたとか、小学校が増設されている等の情報を実際に見て頂いています。地域の方とすれ違う時には挨拶をしています。	敷地内に中庭があり、十分な広さが確保されている。それを活かして、外出が難しくなっている中でも毎日外に出て、季節の変化を感じられる取組みをしている。半月に1度程度であるが、ホーム周辺を散歩して気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個々でお金を管理されている方はいません。管理者がご家族様から預かり、必要に応じて買い物を希望される入居者様はいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ過になり面会が禁止されるようになると電話で声が聴きたいと言われるご家族様が増えてきています。手紙のやりとりも活発です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃や室温、テレビの音量等には常に配慮しています。季節に合わせたフロアーの飾りつけを一緒に行き、季節感を感じられるようにしています。	毎朝、利用者が参加して職員と掃除を行っている。廊下の幅が広く、車椅子でも安心してすれ違うことができる。壁には利用者の様子を撮影した写真を多く飾り、利用者が自分の生活空間だと認識できる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室は出入り自由にしております。余暇時には気の合った入居者様同士で交流の時間を持たれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご自宅で使われていた家具を持ってきて頂くよう伝えています。家具の配置や壁の飾り物、カレンダー等、ご本人様の意向を伺っています。	使い慣れた物を自由に持ち込み、安心して暮らせる空間となっている。居室には、ベッド、エアコン、洗面台も設置されており、居室内だけで生活できる環境が整っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に、自室とわかるように写真を飾らせて頂いたり、トイレには「トイレ」の張り紙を張らせて頂き、安全に使えるように配慮しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372102216		
法人名	株式会社 ナンプ		
事業所名	グループホーム リズム1		
所在地	岡崎市若松町字西之切50		
自己評価作成日	令和3年9月12日	評価結果市町村受理日	令和4年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2372102216-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いたわりあい、たすけあい、おだやかにともにくらす」が事業所理念です。職員がこの理念をもとに入居者様に接しています。今、出来ていることは継続し、出来そうなことを提案できるように職員間でアセスメントをし、実行、モニタリングをしています。
 広い中庭にはベンチがあり自由に外に出て季節を感じられたり、散歩をされます。リズム通信を毎月作成し、ご家族様に入居者様の様子を写真入りで伝えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が目につく所に張り出して意識付けをしています。新入社員には初日に伝えました。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	4月に町内の総代さんが変わった際にはご挨拶に伺いました。小学校との交流や運動会への招待や敬老会等の行事はコロナ過のため縮小されているため交流は少なくなっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護に関する相談事は対応させて頂いています。初任者研修のための実習の受け入れをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過のため書面にて報告させていただいています。それに対してのご意見はいただいていません。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退所報告や介護保険についての相談を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除委員会を設置し、2か月に1度、会議を行い(現在は書面にて)、現状の把握や確認、改善を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束排除委員会と併せて現状の把握や確認、改善を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修のパンフレットを張り出して参加を募っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時には、ご本人様及びご家族様へ納得していただけるまで説明し、その上で同意を得られるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議や面会時など、様子をお伝えしたりご要望をお聞きし、職員と共有しています。外部へ表せる機会を設けてはいません。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にコミュニケーションを増やし困っていることや、提案事項を聞いて改善できることは実施しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数、職責、人事評価結果に応じた給与設定、資格取得に対する報酬制度等があります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員指導員を設けマンツーマンで指導しています。社外研修に関してはパンフレットを張り出し参加を募っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過でグループホーム小部会は休止が多くなっています。そのため交流は少ないです。社内には計4つのグループホームがあり待機者の情報共有や運営上の問題点等を顔を合わせた時に意見交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に面談を行い、ご本人の困っていることや、要望を伺う機会を作り計画を作成しております。安心して生活していただけるように職員から積極的に話かけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会議にはご家族様のご要望を伺っています。面会時にはご本人様の様子を伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じてご家族様に適したサービスが提供できるように相談しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事、やりたい事を通して他者との関わりを持っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様にいつもと違う点が見られた場合は、ご家族に相談したり、ご家族様の意向をお聞きしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の散髪は馴染みの所へ今までのように通っていただいたり、受診の際は通われていた病院へご家族様にお連れいただいています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	掃除や食事の配膳、レクリエーションを通して一緒に生活していると実感していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了の理由にもよりますが、他施設へ転居される場合はそれまでのご様子や介助方法などの情報提供に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話からご本人様の思いをくみ取っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの物を入居時お持ちいただいています。これまで利用されていたサービスに関しましては情報収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、介護記録、申し送り等で一人一人の把握に努めています。心身状態によっては、静養する時間を作り安楽して生活できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人一人に担当職員をつけケアチェックやモニタリングを実施しています。短期目標が切れる時に意見をだし、介護計画に反映しています。同時にご家族様の要望をお聞きしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録以外にも日報へ特変事項を記入し、職員間で情報共有を行っています。担当職員とケアマネが主となり介護計画に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身状態の変化を常にご家族様に連絡し、サービス内容の変更についてお話しています。緊急性が高い場合は職員間で協議し対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過になってからは地域とのつながりは少なくなっていますが、回覧板を総代さんが回して下さるので地域の色々な情報を入居者に伝えています。参加出来そうな事は検討しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際、かかりつけ医を当社の協力医療機関に指定していただく規則はありません。月1回の往診と必要に応じて受診をしております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による朝夕の巡視時、特変事項を報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、病院の看護師や相談員さんと情報交換を行い、病状の把握と退院後の受け入れ体制を整えるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を設けてご家族様から同意を頂いております。その中でご本人様、ご家族様の意向を確認させて頂き、話し合いをするようにしております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはフローチャートを参照し、関係者への連絡体制を作り、急変時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施しています。地域の方との関係作りに関しては今後の課題となります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係を築きつつ、相手の方に不快な思いをさせないような言葉遣いを行えるよう努めています。プライバシーに関しては部内で適切な介助、声掛けができていますか確認しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを押し付けるようなことはせず、個々の能力や心身状態を把握した上で、自己決定が行えるように声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご本人様のペースを大事にしてそれに合わせて自由に過ごして頂いています。しかしながら職員のペースに合わせて頂く場合もまだまだ見受けられます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にはご自分の着たい服を選んで頂いています。洗顔後、髪をといて寝癖を直したり身だしなみを整えて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には盛り付け、机吹き、配膳、下膳、食器洗いをしていただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新鮮な野菜や旬の食材を出来るだけ多く食べて頂けるようメニューを考えています。食事形態は個々に対応しています。必要に応じて食事の介助を行っています。食事量、水分摂取量は毎回、記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の口腔ケアが必要な方には磨き残しが無いよう援助しています。希望者には訪問歯科診療を使って頂き、ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをしトイレでの排泄を基本としています。車椅子の方でも職員2名介助にてトイレでの自己排泄に取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌を多く取り入れた飲み物を提供しています。歩行距離を増やし腸の運動を促進しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴機会を設けています。ご本人様の体調に留意しながら無理強いしない声かけをしています。時間帯を変えたり職員を変えたりと対応しています。菖蒲湯やゆず湯等、工夫しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくと眠ることができるように日中の活動時間を出来るだけ増やすように努めています。居室の温度調整をこまめに行い、布団干しも行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に処方内容を職員がすぐに確認できるように個人ファイルに保管しています。内容に関して不明な点があれば、薬剤師へ確認を取るようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的にイベント食を企画し、入居者様に食べたいものを伺い希望に添えるようにしています。天気の良い日には中庭へ出て散歩や日向ぼっこで気分転換をして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ出る際は職員が付き添います。近所で新しいお店ができたとか、小学校が増設されている等の情報を実際に見て頂いています。地域の方とすれ違う時には挨拶をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個々でお金を管理されている方はいません。管理者がご家族様から預かり、必要に応じて買い物希望される入居者様はいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ過になり面会が禁止されるようになると電話で声が聴きたいと言われるご家族様が増えてきています。手紙のやりとりも活発です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃や室温、テレビの音量等には常に配慮しています。季節に合わせたフロアーの飾りつけを一緒に行い、季節感を感じられるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室は出入り自由にしております。余暇時には気の合った入居者様同士で交流の時間を持たれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご自宅で使われていた家具を持ってきて頂くよう伝えています。家具の配置や壁の飾り物、カレンダー等、ご本人様の意向を伺っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に、自室とわかるように写真を飾らせて頂いたり、トイレには「トイレ」の張り紙を張らせて頂き、安全に使えるように配慮しています。		